企業内部留保

雲地草夫

内部留保について

企業は莫大な内部留保を貯めこんでいる。内部留保があるのかないのかについて議論することはナンセンスである。あるものはあるのである。ないはずはないのであある。内部留保がないなんてことは、鶴がコケッコッコーと鳴くようなものである。

ではどのようにして企業から内部留保を吐き出させればいいのであろうか。答えは簡単である。社員たちと社長が胸襟を開きあい、膝を突き合わせて交渉することである。一対一の交渉が厳しかったら、多対一、あるいは多対多の交渉をしてもいいかもしれない。

そのようにすれば、内部留保は必ず姿を変え、現金として社員の目の前に現れるのである。